



陸密 副官ヨリ技術本部長へ通牒

首題算定具十一月七日附陸技本甲第一三七號上申
ノ通定ムラルヘキニ付該圖面(概説共)八二部送付セラレ度

陸密第二〇九四號

昭和四年十二月廿四日



(右送付アリタル後左案決定行相成度)

陸密 副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

算定具別紙圖面ノ通定ノセラレシニ付該圖面

(概説共)ノ部送付ス

陸密第二八五號

昭和五年二月二十四日

関東軍及教育總監部行三、ノ別紙配賦表ノ通ニ作ルコト

附屬品送付済

昭和五年五月八日



育 教										配 賦 箇 所		九 七 五 高 射 算 定 兵 團 而 配 賦 表			
工兵學校	騎兵學校	歩兵學校	砲工學校	豫科士官學校	士官學校	本部	參謀本部	築城部本部	工科學校	技術本部	造兵廠		兵器本廠	兵器局	配 賦 部 數
			一	一	一				一	四	五		五	一	内 賦 計
師										配 賦 箇 所		配 賦 部 數			
部 本 空 航							部 本 空 航			配 賦 箇 所					
兵器部	兵器部	兵器部	兵器部	兵器部	兵器部	兵器部	熊谷	下志津	明野	浜松	水戸		所澤	配 賦 部 數	
				一	五	六							内 賦 計		
東 關										配 賦 箇 所		配 賦 部 數			
野戰兵器廠出張所()										配 賦 箇 所					
			彈春隊	第三四五軍	砲兵團	電信隊	鐵道隊	自動車隊材料廠	野戰航空廠	技術部	野戰兵器廠出張所()		配 賦 部 數		
				四	一					一	九	内 賦 計			

二四

pb

秀備	航空本部					總監				
	航空技術學校	航空整備學校	東京航空學校	航空支廠	航空本廠	技術研究所	野戰砲兵學校	重砲兵學校	自動車學校	習志野學校
	關東軍					衛				
	奉天	牡丹江	哈爾濱	新京	野戰兵器廠	兵器部	出張所	兵器部	氣球隊	鐵道隊
	一	一	一	一	三	一				
	北支那方面軍					軍				
	要塞司令部(除羅羅)	海軍省	第一方面軍	支那派遣軍	滿洲國	第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第五師團
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一八一	一八一	一八一	一八一	一八一	一八一	一八一	一八一	一八一	一八一

東京灣、由良、津輕、舞鶴、下關、對馬、
 長崎、永興灣、銀海灣、基隆、澎湖島、
 旅順、父島、奄美大島、豐豫、壹岐、羅
 津、高雄

0955

0954

新 中
水 影
、 影
、 影
、 影
、 影

考 備	航 空 本 部						第 一 飛 行 集 団	監 總															
	航 空 技 術 學 校	航 空 整 備 學 校	東 京 航 空 學 校	航 空 支 隊	航 空 本 廠	技 術 研 究 所		本 部	教 導 學 校	熊 本	豊 橋	仙 台	防 空 學 校	一	戰 車 學 校	習 志 野 學 校	自 動 車 學 校	重 砲 兵 學 校	野 戰 砲 兵 學 校	通 信 學 校			
	關 東 軍						台 灣 軍	団															
	廠 支 同			野 戰 兵 器 廠	兵 器 部	兵 器 部	兵 器 部	工 兵 隊	兵 器 部	電 信 隊	兵 器 部	出 張 所	兵 器 部	出 張 所	兵 器 部	氣 球 隊	鉄 道 隊	電 信 隊	衛 士	衛 士			
奉 天	牡 丹 江	哈 爾 濱	新 京																		第 八	第 五	第 三
	一	一	一	一	三	一																	
	海 軍						北 支 那 方 面 軍	軍															
計	要 塞 部 隊 (除 羅 庫 庫)						中 支 那 派 遣 軍	滿 洲 國	団 師 遣 派							第 一	第 二	第 三	第 四	第 七	第 八	第 十	第 十 二
									第 一	第 二	第 三	第 四	第 七	第 八	第 十								
	一	一	一	一	一	一																	
	一	一	一	一	一	一																	

秘

陸軍技術本部第一三七號

九七式高射機銃定具制式制定ノ件上申

昭和十四年十一月七日

陸軍技術本部長 多田

陸軍大臣 畑 俊六 殿

首題兵器別紙圖面ノ通制式制定相成度

追而軍務總務兵興トシテ制定セラレ度圖面一部、細目名稱表、取扱法（上、下巻共）概説及審査経過ノ概要各紙部添付ス

陸軍技術本部第一三七號



九七式高射算定具審査經過ノ概要

一 審査ノ起因

昭和八年十二月二十八日陸普第七九六一號ニヨリ審査ヲ開始ス

二 審査ノ經過

- (1) 昭和十年三月日本光學工業株式會社ニ於テ第一回試験完了
- (2) 昭和十年三月静岡縣及神奈川縣下ニ於テ運行耐振試験ヲ實施ス
- (3) 昭和十年四月千葉縣飯岡射場ニ於テ第一回試験ヲ實施シ試験ノ結果水平距離計算器電氣平行誘導裝置及火砲用受信器ノ改修ヲ行フ

- (4) 昭和十年六月千葉縣下志津飛行場ニ於テ第二回試験ヲ實施ス
- (5) 昭和十年七月陸軍野戰砲兵學校ニ實用試験ヲ委託ス
- (6) 前項實用試験ノ結果ニヨリ左記事項ノ設計變更ヲ行ヒ第二回試験ニ着手ス

1、算定具本体、電源其他屬品類ヲ一噸半積被牽引車ニ積載シ得ル如クス

- 2、電源用トシテ蓄電池ノ外發動發電機ヲ追加ス
- 3、未來修正量ノ追隨測合方式ヲ自動追隨式ニ改ム
- 4、觀砲間隔修正裝置ヲ追加ス
- 5、死節時修正用轉把ヲ削除ス
- 6、火砲用受信器ヲ製作調整容易ナル如ク改修シ且指針ノ回轉速度ヲ1/2ニ低減ス
- 7、水平距離計算器ノ機能ヲ良好ナラシムル如ク改修ス
- 8、高度變化率計算器ヲ削削除シ之ヲ測高機ニ附ス
- (7) 昭和十一年一月日本光學工業株式會社内ニ於テ耐寒試驗ヲ實施シ試驗ノ結果算定具本体、火砲用受信器及測高機ノ高度發信器等ノ内部ニ電熱裝置ヲ附ス
- (8) 昭和十一年三月日本光學工業株式會社ニ於テ第二回試製完了ス
- (9) 昭和十一年十月東京附近ニ於テ運行耐振試驗ヲ實施ス
- (10) 前項試驗ノ結果ニヨリ運搬車ニ小修正ヲ行フト共ニ將來ノ製品ニ對シテハ左記ノ如ク設計變更ヲ行フ

- 1、重量ヲ輕減セシムル爲車輻及屬品類ノ余肉ヲ削除ス
 - 2、屬品箱ヲ牽引車ニ積載シ得ル如クス
 - 3、電池箱ヲ木製トス
- (11) 昭和十一年十二月ヨリ昭和十二年四月迄陸軍野戰砲兵學校ニ實用試驗ヲ委託ス
- (12) 昭和十二年實用試驗終了直後日本光學工業株式會社内ニ於テ分解検査ヲ實施シ長期使用後ノ各部ノ状態ヲ検査シ検査ノ結果其機能及精度ニ變化ナキヲ認ム
- (13) 昭和十二年四月ヨリ同年七月迄陸軍野戰砲兵學校ニ實用試驗ヲ委託ス
- (14) 前項試驗ノ結果ニヨリ配電盤ヲ取扱容易ナル如ク改修ス
- (15) 昭和十三年三月ヨリ同年五月迄中支那派遣軍ニ於テ實用試驗ヲ實施ス
- (16) 前項試驗ノ結果本体内部機械部品並ニ電氣接點部等ヲ改修シテ堅牢ナラシメ又本体外部ニ迷彩塗料ヲ塗布ス

(17) 昭和十三年十二月ヨリ昭和十四年一月迄滿洲國公主嶺及齊々哈爾ニ於テ寒地試験ヲ實施シ試験ノ結果構造機能及精度共ニ良好ニシテ零下三十度附近ノ寒地ニ於ケル實用ニ適ストノ判決ヲ得タリ

(18) 以上諸試験ノ成果ニ基キ所要ノ改修ヲ行ヒタル結果制式兵器トシテ實用ニ供シ得ルモノト判定シ昭和十四年~~十~~月制式制定方上申ス

九七式高射算定具ノ概説

一 目的

本算定具ハ高射砲射撃ニ火砲ニ與フヘキ發射諸元ヲ火砲ヨリ離隔セル位置ニ於テ機械的ニ算定シ且之ヲ電氣的ニ火砲ニ誘導スルト共ニ觀測射彈ノ修正ヲ行フノ用ニ供ス

二 性能

- (1) 本算定具ハ算定具及運搬車ヨリ成リ算定具ハ運搬車上ニ積載シテ運行シ車上ニ積載セル儘若ハ地上ニ卸下シテ使用ス
- (2) 算定具ハ本体、配電盤、一「キロ」發電機、電池箱及屬品等ヨリ成リ本体ハ配電盤ヲ介シテ火砲、測高機、一「キロ」發電機、電池箱及聽音機等ト電纜ヲ以テ電氣的ニ連絡ス
- (3) 本体ハ筐、三脚架、方向眼鏡及高低眼鏡等ヨリ成リ筐外部ニ裝著セル方向眼鏡及高低眼鏡ニヨリテ目標ヲ追隨照準シ諸轉把ヲ所定ノ如ク廻轉セシムルトキハ筐内ノ機械裝置ニヨリ航速測定

陸軍

機ヲ使用スルコトナクシテ目標ノ移動諸元ヲ測定スルト共ニ火砲ニ與フヘキ方向角、射角、信管分靈ヲ算定シ之等諸元ヲ電氣的ニ火砲ニ傳達スルモノニシテ上昇飛行、降下飛行其他不規行動等目標ノ飛行狀態ノ如何ニ關セス射撃指揮ヲナスコトヲ得ルノミナラス地上目標若ハ海上目標ニ對シテモ射撃指揮ヲ行フコトヲ得

(4) 本算定具ハ觀砲間隔修正裝置及聽測諸元受信器ヲ有シ砲側ヨリ數百米離隔シタル位置ニ於テ聽測射撃ヲ實施スルコトヲ得

(5) 本算定具ハ極寒地ニ於テモ使用シ得ル爲筐内部其他所要ノ部位ニ電熱裝置ヲ備フ

(6) 運搬車ハ九四式一噸半積被牽引車ノ構造ヲ變更シ算定具托架、配電盤托架及電纜卷匡等ヲ裝著シ且幌及幌骨ヲ裝シタルモノニシテ車框ノ構造ハ略同被牽引車ノモノニ同シ

(7) 本算定具ノ主要諸元左ノ如シ

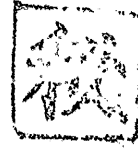
(イ) 方向射界

六四〇〇密位

(ロ) 高低射界	俯角 一〇度 仰角 九〇度
(ハ) 算定可能最大航速	一五〇米/秒
(ニ) 算定具ニヨリ指揮シ得ル火砲數	四門以内
(ホ) 所要操作人員	八名
(ヘ) 最大觀砲間隔	五〇〇米
(ト) 重量	算定具本体 約四五〇匁 全重量 約三七八〇匁

陸軍

0960



陸軍省
第二〇八三號
其

陸技本秘甲第三三號

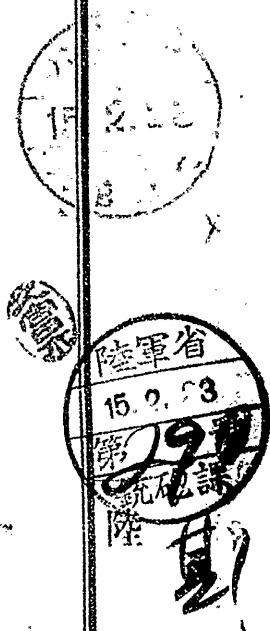
九七式高射算定具圖面竝ニ概説送付ノ件通牒

昭和十五年二月二十二日

陸軍技術本部副官 堀部 武

陸軍省副官 川原直一 殿

客年十一月二十五日附陸密第二〇九四號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝ニ
概説(圖面拾六枚) 概説(壹枚) 各百八拾貳通送付ス
追テ現品ハ陸密發號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度



軍